

貯 法：室温保存
有効期間：3年

日本薬局方 塩化カルシウム注射液

処方箋医薬品^{注)}

塩化カルシウム注 2% 「NP」

Calcium Chloride Injection

承認番号	22500AMX00750
販売開始	1974年5月

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

- 2.1 高カルシウム血症の患者 [高カルシウム血症が悪化するおそれがある。] [8.2、9.1.1 参照]
- 2.2 腎結石のある患者 [結石症が悪化するおそれがある。また、腎の石灰化や尿路結石を誘発するおそれがある。]
- 2.3 重篤な腎障害のある患者 [9.2.1 参照]

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	有効成分
塩化カルシウム注 2% 「NP」	1 アンプル (20mL) 中 日本薬局方 塩化カルシウム水和物 0.54g (CaCl ₂ として 0.4g)

3.2 製剤の性状

販売名	pH	浸透圧比	性状
塩化カルシウム注 2% 「NP」	4.5 ~ 7.5	約 2 (生理食塩液に 対する比)	無色澄明の液

4. 効能・効果

- 低カルシウム血症に起因する下記症候の改善
テタニー、テタニー関連症状
- 鉛中毒症
- マグネシウム中毒症
- 下記代謝性骨疾患におけるカルシウム補給
妊婦・産婦の骨軟化症

6. 用法・用量

塩化カルシウムとして、通常成人 0.4 ~ 1.0g (カルシウムとして 7.2 ~ 18mEq) を 2w/v% (0.36mEq/mL) 液として、1 日 1 回静脈内に緩徐に (カルシウムとして毎分 0.68 ~ 1.36mEq) 注射する。
ただし、妊婦・産婦の骨軟化症に用いる場合は、経口投与不能時に限る。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

8. 重要な基本的注意

- 8.1 静脈内注射は緩徐に (カルシウムとして毎分 0.68 ~ 1.36mEq: 本品 20mL 当たり 5 ~ 10 分間) 行うこと。急速な静脈内注射によって動悸、徐脈、血圧変動、熱感、潮紅、発汗等があらわれることがある。
- 8.2 長期投与により血中及び尿中カルシウムが高値になることがあるので、長期投与する場合には定期的に血中又は尿中カルシウムを検査することが望ましい。[2.2、9.1.1、10.2 参照]

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等の患者

9.1.1 高カルシウム血症があらわれやすい病態の患者

高カルシウム血症を生じるおそれがある。[2.2、8.2、10.2 参照]

9.2 腎機能障害患者

9.2.1 重篤な腎障害のある患者

投与しないこと。高カルシウム血症が悪化するおそれがある。[2.4 参照]

9.2.2 腎障害を有する低カルシウム血症の患者

アシドーシスを促進するおそれがある。

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

9.7 小児等

小児等を対象とした有効性及び安全性を指標とした臨床試験は実施していない。

9.8 高齢者

投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。一般に生理機能が低下している。

10. 相互作用

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
* 強心配糖体 メチルジゴキシン ジゴキシン デスラノシド	強心配糖体の作用を増強し、徐脈、心室性期外収縮、房室ブロック、心室頻拍等の中毒症状を誘発するおそれがある ¹⁾ 。治療上やむを得ないと判断される場合を除き、これらの薬剤との併用は避けること。やむを得ず併用する場合には、心電図検査等によるモニタリングを行い、不整脈の発現に対応できるようにすること。また、急激にカルシウム濃度を上昇させるような使用法は避けること。	カルシウムは強心配糖体の心筋収縮力増強作用を強める。
活性型ビタミンD製剤 アルファカルシドール カルシトリオール等 [8.2、9.1.1 参照]	高カルシウム血症を生じるおそれがある。	カルシウムの吸収を促進する。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
長期投与	高カルシウム血症、結石症
代謝異常	アシドーシス
消化器	食欲不振、便秘
投与部位	血管外へ漏れると組織の炎症、壊死

14. 適用上の注意

14.1 一般的な注意

使用時には、感染に対する配慮をすること。

14.2 薬剤調製時の注意

14.2.1 クエン酸塩、炭酸塩、リン酸塩、硫酸塩、酒石酸塩等を含む製剤と混合した場合、沈殿を生じるので混合を避けること。

14.2.2 エタノールにより沈殿を生じるので、エタノールが内容液中に混入しないよう注意すること。また、エタノールで消毒した注射器は用いないこと。

14.3 薬剤投与時の注意

14.3.1 注射に際しては血管外に漏出しないよう注意すること。

14.3.2 残液は使用しないこと。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

カルシウムは人体内に最も大量に存在する無機質であり、骨の形成、維持、修復等に必須の役割を果たしているほか、神経及び筋の興奮性の調節など多くの複雑な生理学的過程に関与している。

カルシウムは神経や骨格筋の興奮を鎮め、低カルシウム血症によって起こるテタニー症を改善する。

また、鉛中毒、マグネシウム中毒の治療や妊産婦の骨軟化症に対するカルシウムの補給に用いる²⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般名：塩化カルシウム水和物 (Calcium Chloride Hydrate)

分子式：CaCl₂・2H₂O

分子量：147.01

性状：・白色の粒又は塊で、においはない。

・水に極めて溶けやすく、エタノール (95) にやや溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

・潮解性である。

22. 包装

20mL × 50 管 [アンプル]

23. 主要文献

- 1) Bower, J. O., et al. : J. Am. Med. Assoc. 1936 ; 106 (14) : 1151-1153 (L20220905)
- 2) 第十八改正日本薬局方解説書 . 2021 : C-1142-C-1145 (L20230225)

24. 文献請求先及び問い合わせ先

ニプロ株式会社 医薬品情報室

〒 566-8510 大阪府摂津市千里丘新町 3 番 26 号

TEL 0120-226-898

FAX 050-3535-8939

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元



NIPRO

ニプロ株式会社

大阪府摂津市千里丘新町3番26号